

| | | | | | | | | | |
|------------------|---|------|----|---------|----|-------|-------|-----|-----|
| 講義コード | 11C0112501 | 授業形態 | 講義 | 事前登録の有無 | なし | 担当教員 | 外木 好美 | 開講期 | 第2期 |
| 科目名 | 国際金融論2 | | | | | 外木 好美 | | 第2期 | |
| 履修前提条件 | | | | | | 備考 | | | |
| 授業の目的 | 国際金融論2では、①財市場、②貨幣市場、③為替市場を同時に分析し、一国経済の政策の在り方について学びます。マクロ経済学や金融論で学んだ金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえ、理論的なアプローチから理解することが目的です。 国際金融論1とセットで受講して下さい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | ①マンデル・フレミング・モデルに基づいて、開放経済の下での経済政策について理解すること、②現代の国際金融を取り巻く問題を知ることを目標とします。 国際金融論1で学習した3つの市場の分析を基礎とし、これらを組み合わせた分析を行います。 | | | | | | | | |
| 授業外学修内容・授業外学修時間数 | 授業では、直感的な理解ができるよう努めます。授業後に教科書を読み、各章の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認して下さい。授業中に基礎となる科目（マクロや金融等）の内容にも触れますが、あくまでも簡単な復習レベルです。是非、個別に質問に来るようにして下さい。 授業外学修は60時間以上行うこと。 | | | | | | | | |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 為替レートと実体経済：総需要と総供給、総需要とその決定要因（内需、外需） 【第2回】 為替レートと実体経済：生産物市場の短期均衡、経常収支の考察 【第3回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（1） 【第4回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（2） 【第5回】 為替レートと開放マクロ経済政策：開放経済への拡張（マンデル・フレミングモデル） 【第6回】 為替レートと開放マクロ経済政策：変動相場制における金融・財政政策の効果 【第7回】 為替レートと開放マクロ経済政策：国際資本移動の規制と政策効果 【第8回】 まとめ&質問受付 【第9回】 為替レートと開放マクロ経済政策：予想の変化と政策効果、短期から長期への均衡の変遷 【第10回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：為替相場制度の選択、為替介入 【第11回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：固定相場制度、固定相場制度下の金融・財政政策 【第12回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：通貨同盟と最適通貨圏 【第13回】 国際金融を取り巻く難問（1） 【第14回】 国際金融を取り巻く難問（2）&後半のまとめ 【第15回】 総まとめ&質問受付 | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 中間レポートと期末試験の点数で評価します。 | | | | | | | | |
| フィードバックの内容 | 各章で復習問題で、習熟度を確認してもらいます。ミクロ、マクロ、金融と基礎となる科目が多く、どこでつまづいているのかは学生によってバラツキます。もし解答に困ったら、講義後に残っている時間で質問をしてください。個別に対応します。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。 | | | | | | | | |
| 教科書 | 『コア・テキスト国際金融論第2版』藤井 英次（新世社）2013 | | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | 算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。 | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |